



平和学習

7月19日(金)

1学期最後の授業において、全校生徒対象の平和学習を実施しました。今回の鑑賞教材として社会科久保先生が選んだのは、映画「火垂るの墓」。1988年に公開された高畑勲監督のスタジオジブリ作品です。野坂昭如氏が自身の戦争体験をもとに書かれた小説のアニメ化です。

久保先生からの鑑賞するポイントの説明が終了次第、約90分間の鑑賞が始まりました。

鑑賞後のワークシートの内容を一部、紹介します。

1 登場人物の特徴をそれぞれ詳細に書きなさい。

【清太】・家族をととても大切にしている、じぶんよりも家族を優先する。

自分がどれだけ辛くても悲しくても妹が不安にならないように笑顔でいる。一人で節子を守ろうと危険をおかしてまで行動する。

【節子】・たったの4歳で両親を亡くし、兄の清太と二人で助け合っていた。兄がいない間にも「遊び」を見つけることで、戦争の苦しさや悲しさを忘れようとしていた。

2 第二次世界大戦末期の神戸市の様子・市民の状況はどのようなものでしたか。

・もちろん優しい人もいるけど、戦争は全てが国のためだから、市民は余裕が1つもない。だから自分ばかりになってしまう人もいる。神戸市は、家も焼け、そこら中が焼け野原になってしまっていた。

3 映画「火垂るの墓」を鑑賞後、あなた自身が感じたことを書きなさい。

・清太はすごいと思った。私たちと同年なのに清太は節子のことを一生懸命世話していたから。私が清太のような状況になったら、自分自身のことで精一杯になってしまう。戦争はとても悲惨だと思った。

・戦争の苦しみ、痛みをよく知ることができた。もし私が清太の立場だったらと考えると、ここまで強く生きることができないと思ってしまった。身も心もボロボロで、さらに周りの人間もピリピリして当たりが強い。唯一の家族となってしまった妹も疲れ果てていて、動けるのは自分だけ。本当に強い人だと感じた。“大切なもの”や“自分の心の支えになるもの”があれば、その(人)のために一生懸命になれるものなんだと改めて感じ、大切にしていきたいと思った。

4 あなたが次の条件を基に、この映画「火垂るの墓」を要約するならば、どのようにこのお話をまとめますか。

【条件】1 まとめた文章は、小学校6年生の児童に紹介する内容であること

2 この映画「火垂るの墓」は聴衆に何を伝えたいのかを考えて、書くこと

・「火垂るの墓」は、第二次世界大戦末期、神戸大空襲での清太と節子の生活を描いた映画である。清太と節子は母を亡くしてしまい、親戚の家に住まわせてもらっていた。しかし、その家にも家族はいるため、2人も預かるのは大変なもので結局2人で暮らすことになった。

清太は妹のために危険を冒し必死の思いで行動していたが、最後には妹も亡くしてしまった。亡くなった妹を焼いている時の清太の表情は、私たちの中の戦争への憎しみが膨らんでいくものである。

また、この映画では台詞が少なめで、登場人物の表情や神戸の情景が多く映っており、戦争での悲惨さやそれぞれの声に出せない、心に秘めた本音が私たちの心に直接訴えかけてくるものになっている。

